

## 2. 認定を受けている課程を有する学科等の教員養成に対する理念及び設置の趣旨等

### ● 子ども発達学部心理臨床学科（高一種免（公民）・特支一種免（知・肢））

#### ①教員養成に対する理念

心理臨床学科では、乳幼児期から成人期以降まで、ひとを生涯発達の観点からとらえ、その発達過程や家族心理、発達障害、適応障害などに関する心理学的な基礎知識とともに、心理臨床の基本と援助方法を身につけることをめざしている。そしてその心理学の知識をベースとして、子どもの発達上の問題や、家族の抱える心理的葛藤などの問題に対して、その背景にある生活上の問題を踏まえた心理的な支援を行うことができ、また家族や地域をも視野に入れて広く活動できる人材を育成すること、および、障害児や無国籍児・外国人家族の子どもも含めたすべての子どもの発達を保証するために、教育における国際的な教育水準・質の理解、特に障害児教育の先進的教育・実践動向の理解をはかるとともに、特別な支援を必要とする子どもに対し、家庭も含めた支援の視点を理解できる人材を育成すること、を教育目標としている。

上記の教育目標をもとに、心理臨床学科では「人間福祉」の理念に基づく幅広い教養と豊かな人間性を兼ね備えた、時代の要請に合致する教員を養成したいと考えている。特に、広い視野に立って、現代社会の課題を多面的・多角的にとらえ、生徒の興味・関心を適切に理解し、それらを教科の学習と的確に結び付けて指導できる力の育成に取り組み、個々の児童・生徒の障害特性や可能性を見極め、「生きる力」を育むことができる教員を養成したい。

#### ②教職課程の設置趣旨

##### 【高一種免（公民）】

高等学校公民科教員には、「現代社会」においては、生徒に現代社会へ関心を持たせ、その諸課題を考察させることを通して自己実現へ結び付けることが、また、「倫理」においても、青年期にある生徒が教科の学習を通して、他者と共に生きる自己の生き方について考え、自己確立を促していくことが求められている。そのため、高等学校教員養成課程においては、青年期を中心としたひとの自己発達の心理学的な理解をもとに生徒たちの自己実現や自己確立をとらえ、さらに、心理過程を単なる個人的な事象としてだけではなく、社会的な状況や事象や歴史的な発展過程や地域的な広がりの中かで位置づけることにより、多面的で多角的な視野を持った教員を養成する。合わせて政治・経済・法律・社会学・哲学など、公民科にかかわる緒学科の基礎的な知識を習得させることで、適切に公民科を教えることができる指導力を持った教員を養成する。

##### 【特支一種免（知・肢）】

本学ではすでに福祉系大学の先駆けとして養護学校(現、特別支援学校)教諭の養成を長年行ってきた。これらの経験と実績をベースとしつつも、近年の動向を踏まえた特別支援教員を養成する。近年、学校教育施行令第22条の3に該当する障害を有する児童生徒に加え、LD,ADHD等の発達障害や言語障害、情緒障害などを合わせ有する児童生徒が増加している。心理臨床学科の学びは、そういった障害の多様化・重複化へ対応するため、それらの障害の特性や生理・病理の適切な知識に加え、心理学の視点から彼らの内的体験を柔軟に理解し、子ども一人一人の教育的ニーズや発達のニーズに応じた適切な教育や必要な支援ができる実践的指導力の養成に帰することができる。また、子ども一人一人の理解において、障害を有する児童・生徒の家族と適切なコミュニケーションをはかる能力は欠かすことができない。心理臨床の学びで培ったカウンセリングマインドや面接の方法論を活用し、保護者との協力を核とし、関係諸機関と将来の自立と社会参加に向けた適切な個別の教育支援計画を作成する力を養成する。